

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400303		
法人名	有限会社 札幌すこやか介護サービス		
事業所名	グループホーム すこやか		
所在地	札幌市西区発寒6条13丁目10-22		
自己評価作成日	平成22年12月8日	評価結果市町村受理日	平成23年1月15日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400303&amp;SCD=320">http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400303&amp;SCD=320</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成22年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名の小さなグループホームです。そのため、フットワークが軽く、散歩や買い物、ドライブ、外食、お花見や盆踊り、夏祭りや紅葉狩りなど、季節を感じていただく行事も充実しています。施設内でのレクリエーションにも力を入れています。住宅街に位置し、近くにある小学校との交流や、地域の人たちにもご協力いただき、避難訓練時には沢山の人が出席していただきました。毎年恒例のすこやか夏祭りも楽しみにしてくださっています。近隣のグループホームとも交流があり、緊急時の避難場所として協力体制が出来ています。職員も明るく元気で、入居者様が安心して穏やかに過ごせるよう努力しています。代表者の理解や協力も多く、職場内、職場外研修も充実しています。入居者様が楽しみにしていただく食事メニューも天下一品です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームすこやか」は、地下鉄宮の沢駅やJR発寒駅から徒歩圏内という交通の利便性に優れた静かな住宅地に位置している。1階は同法人が経営するデイサービスで、2階がショートステイを併設したグループホームになっている。運営者や管理者が常に向上心を持って職員を指導することで、職員の介護技術や理念に対する理解度も高く、日々利用者や支え合いながら優しく温かなケアに取り組んでいるグループホームである。開設して4年程であるが、地域との交流も深められ、運営推進会議や避難訓練への参加など運営に関して多くの地域協力が得られている。管理者は、職員の指導と共に役所と連携して実践者研修やリーダー研修、地域住民対象の介護教室の講師などを積極的に引き受け、介護職員や地域住民の知識向上に力を注いでいる。毎月全員のモニタリングを行って現状を把握して個別支援や外出支援も積極的に行うなど、常に利用者の思いに沿ったケアを行っている。食事メニューも充実し、食材を豊富に使って副食の品数を多くしたり、目でも食欲が増すような盛り付けや食器などにも工夫を凝らして利用者の健康を支えている。利用者は毎日行われている豊富なレクリエーションに個々に応じて参加し、明るい笑顔で穏やかな日々を過ごしている。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します	
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	携帯用の理念のカードがあり、スタッフ一人一人に配られていて、見るように心がけている。又、スタッフルーム前に理念が張り出されており、いつでも見られる状況にある。	開設当初に「地域の一住民として交わり、スタッフと共に受け入れていただけるよう、地域との連携に努めます。」という地域密着型サービスの意義を含めた5項目からなる運営理念を作成している。カンファレンスなどで再確認し、職員は日々のケアで実践している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	挨拶を常に交わり、時々おすそ分けなどもいただいている。毎年、すこやか祭りを開催し、地域の皆さんと交流し、地域の方々も毎年楽しみにしてくれている。避難訓練の時には率先して地域の方たちが出席してくださった。読み聞かせボランティア、小中学生の体験授業等	町内会に加入して、盆踊りや地域清掃に参加している。小学生が毎月学校便りを届けてくれたり、地域探検で事業所を訪問することもある。小学校の運動会に招待されて見学に出かけるなど、継続した交流が行われている。ギター演奏による音楽療法のボランティアの方も毎月訪問している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々を対象とした認知症介護教室を開催した。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、参加された方から貴重な意見が聞かれ、又、グループホームの活動にご理解をいただいている。	地域包括支援センター職員や町内会長、福祉部長や家族などの参加を得て、ほぼ2ヶ月毎に開催している。外部評価報告や災害時における地域との協力体制について話し合いが行われている。認知症について理解を深めてもらう機会としても会議が活用されている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月空き状況の連絡をFAXなどで確認し合っている。札幌市グループホーム管理者会議等	管理者は市役所や区役所とメールで連絡を取ったり、法人の事務長が訪問して連携を深めている。管理者は、市の実践者研修やリーダー研修の講師をしたり、西区主催で開催された地域住民対象の介護教室の講師などを行っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修やカンファレンスでの勉強会で、身体拘束について学び、スタッフ個々の意識を高め、身体拘束のないケアに取り組んでいる。	管理者自身が講師を行う時に利用する資料を使用して、身体拘束についての内部研修を行い、マニュアルを整備している。「話しかけ言葉」など、言葉による拘束についても研修を行い、拘束のないケアに取り組んでいる。玄関にはセンサーを設置して、夜間のみ施錠している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修やカンファレンスでの勉強会で、高齢者虐待について学び、入居者様の尊厳を守るケアと虐待のないケアに取り組んでいる。		

グループホーム すこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者がおり、成年後見人に相談できる体制が出来ている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に際しては十分な説明を行い、理解した上で利用していただいている。又、改定時にもきちんと説明を行っている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月一回ご家族に来ていただく体制をとっていて、その時にご家族とお話をする機会としている。又、来訪者カードには意見を書けるようにしている。	家族が来訪した時は必ずお茶を出して職員が会話を交わし、コミュニケーションを取ることで信頼関係が深まり、気軽に要望や意見が寄せられている。家族の意見は口頭で連絡したり、連絡ノートに記録して全職員で共有している。	
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者との個人面談が年に3回ほどあり、話を聴いてくれる。管理者とはその都度話を伝えている。カンファレンス時に意見や提案が出来る。	毎月のカンファレンスにおいて、管理者と職員は率直な意見交換を行っている。職員は日々のケアにおいても意見や提案は言いやすいと感じている。管理者の他、ホーム長やリーダーなどが職員の意見や提案を聞いて、運営に反映できるように工夫している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	取得した資格に応じて、手当が支給される。資格・技能表を作成し、昇給している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が興味を抱いた外部研修会やセミナーなどに参加させている。実践者研修など随時職員が受講できる体制をとっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議や他事業所との懇親会に参加させている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人のペースを守り、気持ちをきちんと傾聴し、信頼関係を築けるよう努力している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ご本人やご家族から話を聞き、センター方式を活用しながら思いや不安を感じ取り、良い関わりが出来るようコミュニケーションをとっている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご自宅に伺いご本人とご家族と面談し、話を傾聴し対応している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>食器拭きや洗濯たたみ等出来ることをお願いしたり、楽しみごとを一緒に行い、共通の喜びや感動を味わう良い関係作りを行っている。</p>		
19		<p>本人を共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族はいつでも訪問しやすいように雰囲気作りを行い、ご家族が来訪された際、職員は連絡や近況など情報を伝え、共有し、支援している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>手紙を出したり、物を送ったり、プレゼントの購入など今までの関係が途切れないよう支援している。行きたい場所に連れて行ったり、会いたい人などには会う機会を作ったりしている。</p>	<p>高齢の利用者も多くなり、知人との交流は少なくなってきたが、親戚に手紙を出す時に職員が切手を購入したり投函などを支援している。希望に応じて海を見に出かけたり、家族と同行して事業所の車でお墓参りなどの支援を行うこともある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>入居者様同士が支えあえるような関係作りの為にスタッフは間に入り、楽しいかわりの支援をしている。</p>		

グループホーム すこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	状況に応じて、連絡できる場合にはご家族に連絡し近況報告を受けている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常にご本人本位で考え、その人らしい暮らしが出来るよう、その方の心の声も聴ける様支援している。“パーソンセンタード・ケア”の精神で対応している。	利用開始時には、管理者が自宅や病院を訪問して家族や本人に面談し、思いや意向、生活歴などを聞いて暮らしの情報シートに記録している。利用開始後の新しい情報は、記録を追加したり新しく情報シートを作成して情報の蓄積を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のご本人やご家族からの情報収集、入居後のセンター方式、毎月のカンファレンスなど、情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	対話や観察での情報収集、申し送りや記録、カンファレンスなど、現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族、看護師や医師、スタッフ等、情報交換や意見交換を行っている。ケースカンファレンスシートを利用してそれぞれの意見を集める介護計画に反映する。	新規利用者の介護計画は、計画作成担当者である管理者が面談をして思いや意向を把握して作成し、1～2ヶ月後に見直しを行っている。定期的な見直しは、毎月全利用者のモニタリングを行い、利用者を十分把握して具体的なサービス内容を計画に記入し、6ヶ月～1年で見直しを行っている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録や月間記録、日誌、看護記録、連絡ノート、気づきノート、カンファレンス、申し送りなどを利用し、実践や介護計画につなげている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の買い物や喫茶店、宝くじやパチンコ、墓参りなど個別ケアを重視し、柔軟に支援している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアにお願いしたり、近隣のグループホームとの交流や地域の盆踊りなど、楽しめることを見つけている。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療を受けている。訪問歯科も必要時に対応してくれる。緊急時は連絡が取れるようになっている。ご家族やご本人の希望を聞きながら主治医と話し合っている。	協力医療機関の内科医や歯科の往診が定期的に行われている。利用者のかかりつけ医を協力医療機関として契約するなど、事業所としてかかりつけ医を継続できるように支援している。診察後は「診療情報提供書」を記入してもらい、ファイルに整理して各利用者の健康状態を把握している。	

グループホーム すこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックや健康管理、身の回りのことなど、相談できる。緊急時や不安な時も柔軟に対応してくれる。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、こちらの情報を伝え、入院中はお見舞いに行き様子を確認し、退院時には、病院より情報をもらい、状態の把握に努めている。		
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向けた指針があり、終末期の希望もご家族から聞いている。看取りについての説明も行っている。	利用開始後、家族とコミュニケーションがスムーズにとれるようになった時点で、「グループホームすこやか入居者事前指定」について説明して、治療方針や亡くなった時の対応などについて家族や本人の意向を確認している。体調変化に応じて、医師、家族、事業所で対応を話し合い方針を共有している。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急やAEDの使い方などを実践している。又、緊急時の対応など、研修を行っている。		
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の人も参加して、避難訓練を行っている。その際、一人ひとりのADLに合わせた避難方法を考え、避難誘導を行った。	消防署の協力の下、夜間の火災を想定した避難訓練を年間2回行っている。春の避難訓練に地域住民も参加し、実際に利用者の対応を行っている。近隣のグループホーム2箇所と、避難場所として協力関係を結んでいる。地震訓練や備品整備についてはまだ十分な対応は行われていない。	地震時の対応や備品の整備について職員間で話し合いを持ち、事業所としての方針が確立されるように期待したい。
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長い人生を歩んでこられた人生の先輩として敬い、一人ひとりを思いやる気持ちを大切にし、尊敬の気持ち大切にしている。	職員の新人教育の中で利用者への言葉遣いや対応について指導している。名前の呼び方は苗字に「さん」付けにしているが、家族と相談して利用者の親しみやすい呼び方に変える時もある。個人情報などは適切に管理している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お互いの信頼関係作りに努力し、自分の思いが伝えられるような環境作りを行っている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日ごとの入居者様の希望や体調、ペースにあわせ、入居者様主体の暮らしが出来るようスタッフは心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の好みに合わせ、毎日ご本人に希望をお聞きしたり、身だしなみやおしゃれに気をつけている。		

グループホーム すこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものをお聞きしたり、一緒に買い物に行ったり調理のお手伝い、下膳、食器拭き、マットやテーブル拭きなど、お手伝いしていただき、感謝の気持ちを伝えている。一人ひとりの好みを把握し、メニューを考えている。	担当職員は食材を見て、利用者の好みも聞きながら、その日の献立を作っている。畑で採れた旬の野菜類を食卓に載せ、誕生日には好みの特別メニューにしている。食材を豊富に使って副食の品数を多くして、利用者がその中から選んで食べられるようにしている。目でも食欲が増すような盛り付けや食器などにも工夫が見られる。会話を楽しみながら職員も食卓に付き、食事を共にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少なくならないよう、飲み物の種類を沢山用意している。食事量や栄養バランスにも注意し、支援している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケア、義歯の洗浄、ご本人が出来る時には声掛けや促しを行っている。訪問歯科に口腔チェックなどもしてもらっている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけ、出来る機能で、トイレで排泄が出来るよう支援している。一人一人に合った時間を探り、誘導等を行っている。	排泄チェック表に記録し、間隔を見ながらトイレへの声かけや誘導を行っている。おむつを使用している場合も日中はトイレで介助している。トイレへの声かけはさり気ない誘い方で、利用者の状態に合わせて対応し、プライバシーに配慮している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や、牛乳、ヨーグルト、オリゴ糖、繊維質の多い食事など、食べるもので工夫し、運動や腹部マッサージなどを行っている。		
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の体調や気分、ご希望に沿って入浴をしていただいている。入浴剤を工夫したり、菖蒲やみかん風呂など楽しんでいただいている。	午前～夕方頃まで毎日入浴できる態勢を整え、週2回以上の入浴を実施している。介護度が重い利用者の入浴には2人介助で支援している。入浴を嫌がる利用者には週1回の入浴になっているが、家族と相談しながら無理強いをしないで対応している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠状況に合わせ、支援している。眠れないような時には、温かいミルクや湯たんぽ、足湯などもしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬についての目的や副作用などの理解に努め、ミスの無い様にセットし、服薬支援を行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせた行事や日々のレクリエーション、新聞、本、習字、外食、買い物、ドライブ、散歩、音楽、編み物、貼り絵、体操、歌、ゲーム、DVDの鑑賞など		

グループホーム すこやか

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの買い物や、外食、お祭り、美術館、コンサート、喫茶店、四季を感じられるような外出など、色々行っている。	暖かい時期には様々な機会を捉えて外出し、月に5～6回の外出行事を楽しんでいる。職員と一緒に犬の散歩を手伝う利用者もいる。希望に沿っての個別の外出支援や法人の車両で全員が出かけるなど、外に出かける機会が多い。区のグループホーム合同クリスマス会に職員と一緒に出かけ、歌や踊りを披露している。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の際にご本人にお金を支払う場面を作り、本人がお金を所持したい場合はご家族に伝え、ご本人の希望に添えるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの電話を使ってお話していただいたり、電話を取り次いだりしている。手紙も切手を用意したり、出してあげたり、支援を行っている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには、季節を感じていただけるよう手作りの壁面装飾や置物などを季節ごとに変えたり、ひとりになれる椅子を要所所に置いたり、リラックスできる音楽をかけたりしている。日差しや証明などの調整にも気を配っている。	住宅を改築した共用空間は、日当たりも良く、家庭的な雰囲気である。壁には季節の装飾や利用者と一緒に作った作品が品良く飾ってある。優しい表情の木彫りの地蔵が居間の台座に置かれており、事業所全体を包み込むような温かさを演出している。温湿度計や照明なども適切に管理されており、居心地よい環境になっている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置に気を配ったり、廊下の日当たりの良いところへのテーブルと椅子を設置してひとりになれる空間を作ったり、ソファでのおしゃべりが出来るよう職員が間に入ったりしている。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、ご家族に馴染みのもの、家具などを持ってきていただいている。布団や着るものも馴染んでいるものにしてもらっている。お部屋もご本人の過ごしやすいように配置換えのお手伝いをしている。	既存の建物を改築した居室の広さは、多少の違いもある。馴染みの家具類や縫いぐるみなどが置いてあり、その人らしい環境になっている。各居室には利用者の日々の生活や行事の写真を収めたアルバムを用意し、家族と一緒に楽しめるような配慮もある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせた手すりの設置や福祉用具の活用、安全で自立した生活を続けられるよう工夫している。		

目標達成計画

事業所名 グループホームすこやか

作成日：平成 23年 1月 12日

市町村受理日：平成 23年 1月 15日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	13	OJT,OFF-JTと、行っているが、新人職員を含めレベルの差がある。	職員全員が入居者様が今以上に安心して穏やかに楽しく生活できるように職員全員のスキルアップを図る。	新人職員には自己評価チェックシートを使い、1ヶ月、3ヶ月6ヶ月1年と定期的に評価を重ね、自分の出来ている所と出来ていない所の見際めを行う。新人職員研修計画に沿って研修を進めスキルアップを図る。現任職員は、現状で満足することなく、研修に参加し、OJTで知識を伝達していく。	1年
2	35	地震災害時の対応や備品の整備について準備が出来ていない。	地震災害時の対応や備品の整備について職員間で話し合いの場を設け、事業所としての方針が確立されるようにする。	地震災害が発生した時の対応については、前回カンファレンス時に話し合いを行ったが、これといって対応方法や備品についての良い案は出ていない。今後さらに話し合いを続け、事業所としての方針や備品の準備を計画する。	1年
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。